

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 公開特許公報(A)

(11) 特許出願公開番号

特開2017-104264

(P2017-104264A)

(43) 公開日 平成29年6月15日(2017.6.15)

(51) Int.Cl.
A47C 1/06 (2006.01)F 1
A 4 7 C 1/06テーマコード (参考)
3 B 0 9 9

審査請求 未請求 請求項の数 5 O L (全 9 頁)

(21) 出願番号 特願2015-240063 (P2015-240063)
(22) 出願日 平成27年12月9日 (2015.12.9)(71) 出願人 000108672
タカラベルモント株式会社
大阪府大阪市中央区東心斎橋2丁目1番1号
(74) 代理人 100095337
弁理士 福田 伸一
(74) 代理人 100095061
弁理士 加藤 恭介
(74) 代理人 100174425
弁理士 水崎 慎
(72) 発明者 村岡 孝志
大阪府大阪市中央区東心斎橋2丁目1番1号
タカラベルモント株式会社内

最終頁に続く

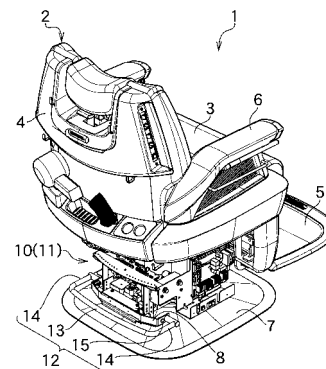
(54) 【発明の名称】 理美容用椅子

(57) 【要約】

【課題】 椅子の向きにかかわらず任意の位置で昇降操作をすることができる理美容用椅子を提供する。

【解決手段】 被施術者が着座する座部3および背もたれ部4が備えられた椅子本体部2と、この椅子本体部2を昇降させる昇降部10と、この昇降部10を操作するために昇降部10に備えられた操作部12と、椅子本体部2と共に昇降部10を回転させる回転機構11とを備えて理美容用椅子10を構成する。操作部12は、ほぼ“コ”字形に形成されると共に昇降部10の後方および側方の周囲を囲って配置されている。

【選択図】 図2



【特許請求の範囲】**【請求項 1】**

被施術者が着座する座部および背もたれ部が備えられた椅子本体部と、
前記椅子本体部を昇降させる昇降部と、
前記昇降部を操作するために前記昇降部に備えられた操作部と、
前記椅子本体部と共に前記昇降部を回転させる回転機構と、が備えられた、
ことを特徴とする理美容用椅子。

【請求項 2】

前記操作部が、
前記昇降部の後方に配置された後方部と、
この後方部に接続されると共に前記昇降部の側方に配置された側方部と、から構成され
た、
ことを特徴とする請求項 1 に記載された理美容用椅子。

10

【請求項 3】

前記後方部が、前記昇降部から所定の間隔を空けて配置されると共に、起立した前記背
もたれ部よりも内側に配置され、
前記側方部が、前記椅子本体部よりも内側に配置された、
ことを特徴とする請求項 2 に記載された理美容用椅子。

【請求項 4】

前記昇降部に支持された軸部が前記操作部に形成され、
前記操作部が、前記軸部を軸に上下に操作される、
ことを特徴とする請求項 1 から請求項 3 のいずれか 1 項に記載された理美容用椅子。

20

【請求項 5】

操作される前の前記操作部の後方部における接地面からの高さが、施術者の足の厚みよ
りも高く、かつ、
前記軸部を軸に回転する前記操作部の可動範囲のうち、上限の高さが、施術者の足の長
さよりも低い、
ことを特徴とする請求項 4 に記載された理美容用椅子。

【発明の詳細な説明】**【技術分野】**

30

【0001】

本発明は、椅子の高さを調節するための昇降装置が備えられた理美容用椅子に関するも
のである。

【背景技術】**【0002】**

従来、理美容施設では、被施術者が椅子に着座し、施術者が、被施術者の前後左右から
、例えば、頭髪のカットや、リクライニングさせて行われる洗髪やシェービングなどの施
術を自在に行いやすくするために、高さを調節するための昇降装置が備えられた椅子が用
いられる。例えば、施術者は、洗髪時において両手にシャンプーが付着しており、また、
シェービング時において剃刀を持っていることから両手が使えない。そのため、椅子を昇
降させるための操作は、椅子の足元に備えられたスイッチで行われる。このような椅子や
昇降装置として、例えば、下記特許文献 1 に記載された洗髪装置、および下記特許文献 2
に記載された理美容椅子の昇降装置がある。

40

【0003】

洗髪装置は、椅子の後方側の足元において、機能が異なる二種類のフットスイッチが左
右に分かれて備えられている。椅子を昇降させる機能を実現するフットスイッチは、左右
の片方にのみ備えられているため、例えば、椅子の後方側から施術する場合や、昇降用の
フットスイッチの反対側のフットスイッチ側から施術する場合、昇降用のフットスイッチ
まで施術者が回り込まなければならないため、円滑に操作することができない。

【0004】

50

一方、理美容椅子の昇降装置は、基台の上に支持ブロックが備えられている。この支持ブロックは、この支持ブロックに対して椅子を昇降および回転させる油圧シリンダのラムが中央に備えられ、椅子を昇降させるペダルが、椅子の周囲を“コ”字状に囲う形状に形成されている。そのため、リクライニングさせた場合であっても左右の何れからでも円滑に操作することができる。

【先行技術文献】

【特許文献】

【0005】

【特許文献1】特開2003-125881号公報

【特許文献2】特開2007-151787号公報

10

【発明の概要】

【発明が解決しようとする課題】

【0006】

しかし、特許文献2に記載された理美容椅子の昇降装置は、上記したとおり、油圧シリンダのラムが、支持ブロックに対して椅子を回転させるため、リクライニングされた椅子を回転させて足置きがペダルの上に配置された場合、ペダルを操作し辛い。すなわち、洗髪時において、椅子の前方に備えられたシャンプーボウルに頭部を配置させるために、リクライニングさせた椅子を180度回転させた場合、足置きがペダルのすぐ上に配置されるため、ペダルを操作し辛い。

【0007】

20

本発明は、上記の実情に鑑みて提案されたものである。すなわち、向きにかかわらず任意の位置で昇降操作をすることができる理美容用椅子の提供を目的とする。

【課題を解決するための手段】

【0008】

上記目的を達成するために、本発明に係る理美容用椅子は、被施術者が着座する座部および背もたれ部が備えられた椅子本体部と、前記椅子本体部を昇降させる昇降部と、前記昇降部を操作するために前記昇降部に備えられた操作部と、前記椅子本体部と共に前記昇降部を回転させる回転機構と、が備えられた、ことを特徴とする。

【0009】

本発明に係る理美容用椅子は、前記操作部が、前記昇降部の後方に配置された後方部と、この後方部に接続されると共に前記昇降部の側方に配置された側方部と、から構成された、ことを特徴とする。

30

【0010】

本発明に係る理美容用椅子は、前記後方部が、前記昇降部から所定の間隔を空けて配置されると共に、起立した前記背もたれ部よりも内側に配置され、前記側方部が、前記椅子本体部よりも内側に配置された、ことを特徴とする。

【0011】

本発明に係る理美容用椅子は、前記昇降部に支持された軸部が前記操作部に形成され、前記操作部が、前記軸部を軸に上下に操作される、ことを特徴とする。

【0012】

40

本発明に係る理美容用椅子は、操作される前の前記操作部の後方部における接地面からの高さが、施術者の足の厚みよりも高く、かつ、前記軸部を軸に回転する前記操作部の可動範囲のうち、上限の高さが、施術者の足の長さよりも低い、ことを特徴とする。

【発明の効果】

【0013】

本発明に係る理美容用椅子は、上記した構成である。すなわち、昇降部が回転して椅子本体部の向きが変わると、昇降部に備えられた操作部も同じ向きに回転するため、椅子本体部に対する操作部の相対的な位置が変化しない。したがって、椅子本体部の向きにかかわらず任意の位置で昇降操作をすることができる。

【0014】

50

本発明に係る理美容用椅子は、操作部が、昇降部の後方に配置された後方部と、この後方部に接続されると共に昇降部の側方に配置された側方部とから構成されている。したがって、椅子本体部の向きにかかわらず、後方側または側方の任意の位置で昇降操作をすることができる。

【 0 0 1 5 】

本発明に係る理美容用椅子は、後方部が、昇降部から所定の間隔を空けて配置されると共に、起立した背もたれ部よりも内側に配置され、側方部が、椅子本体部よりも内側に配置されている。この構成により、施術者が椅子本体部の周囲を動き回る際、操作部が障害とならず、効率的に施術することができる。

【 0 0 1 6 】

本発明に係る理美容用椅子は、昇降部に支持された軸部が操作部に形成され、操作部が、軸部を軸に上下に操作される。したがって、椅子本体部の向きにかかわらず任意の位置において、足を上げ下げすることで昇降操作をすることができる。

【 0 0 1 7 】

本発明に係る理美容用椅子は、操作される前の操作部の後方部における接地面からの高さが、施術者の足の厚みよりも高く、かつ、軸部を軸に回転する操作部の可動範囲のうち、上限の高さが、施術者の足の長さ（踵からつま先までの長さ）よりも低い。すなわち、後方部と接地面との間は、つま先が入る間隔が形成される。また、操作部の可動範囲の上限の位置は、施術者の足のつま先が届く高さである。そのため、施術者は、踵を接地面に付けたまま、つま先を上下することで操作することができ、足に負担をかけずに昇降操作をすることができる。

【 図面の簡単な説明 】

【 0 0 1 8 】

【 図 1 】 本発明の実施形態に係る理美容用椅子における後方側からの外観が示された外観後方斜視図である。

【 図 2 】 本発明の実施形態に係る理美容用椅子における後方側からの一部の内部構造が示された後方斜視図である。

【 図 3 】 本発明の実施形態に係る理美容用椅子における側方側からの外観が示された外観側方図である。

【 図 4 】 本発明の実施形態に係る理美容用椅子における後方側からの外観が示された外観後方図である。

【 発明を実施するための形態 】

【 0 0 1 9 】

以下に、本発明の実施形態に係る理美容用椅子 1 を図面に基づいて説明する。図 1 は、本発明の実施形態に係る理美容用椅子 1 の外観が示され、図 2 は、理美容用椅子 1 の一部の内部構造が示されている。

【 0 0 2 0 】

図 1 に示されているとおり、理美容用椅子 1 は、被施術者（図示省略）が着座する椅子本体部 2 と、この椅子本体部 2 を昇降させる昇降部 10 と、この昇降部 10 を操作するために昇降部 10 に備えられた操作部 12 と、椅子本体部 2 と共に昇降部 10 を回転させる回転機構 11 とが備えられている。なお、以下の説明では、図 1 を基準として、着座した被施術者の正面側を前方とし、被施術者の背面側を後方とし、被施術者の左右側を側方とし、鉛直方向を上下方向とする。また、裸足、靴下を着用した足、履物を履いた足にかかわらず、「足」と表現し、靴下や履物が着用される場合は、それらの厚みや長さを適宜考慮する。

【 0 0 2 1 】

椅子本体部 2 は、被施術者が座る座部 3 の後方端に背もたれ部 4 が配置され、座部 3 の前方端に足置き部 5 が連結されている。また、座部 3 の左右側方に肘置き部 6 が備えられている。椅子本体部 2 は、昇降部 10 の上に取り付けられている。

【 0 0 2 2 】

昇降部 10 は、接地面に置かれた基台 7 の上面に取り付けられ、後方の可動フレーム 8 に操作部 12 が連結されている。昇降部 10 は、四角形の箱型に形成されたハウジング 9 が被せられ、操作部 12 の一部が露出している。

【0023】

図 1 および図 2 に示されているとおり、操作部 12 は、棒状の部材が、ほぼ“コ”字形に折り曲げられて形成されると共に昇降部 10 の後方および側方の周囲を囲って配置されている。操作部 12 は、昇降部 10 の後方に配置された後方部 13 と、この後方部 13 の両端に接続されると共に昇降部 10 の側方に配置された側方部 14 と、この側方部 14 が接続された可動フレーム 8 と、この可動フレーム 8 に接続されると共に昇降部 10 に支持された軸部 15 とから構成されている。操作部 12 は、軸部 15 を軸に可動フレーム 8 と共に回転することで上下に動く。なお、操作部 12 は、接地面に対して平行に軸部 15 ごと上下に上昇および下降する構成でもよい。また、操作部 12 を下げることで椅子本体部 2 が下降または上昇するか、操作部 12 を上げることで椅子本体部 2 が下降または上昇するかは任意である。

【0024】

ここで、操作部 12 について詳説する。図 3 は、側方から視した本発明の実施形態に係る理美容用椅子 1 の外観が示され、図 4 は、後方から視した理美容用椅子 1 の外観が示されている。図 3 および図 4 により、理美容用椅子 1 全体における操作部 12 の配置が表れている。

【0025】

図 3 に示されているとおり、操作部 12 は、後方部 13 が、昇降部 10 から所定の間隔 X を空けて配置されている。所定の間隔 X は、起立した背もたれ部 4 において、最も後方に張り出した箇所を基準とする後方鉛直仮想線 100 よりも内側の範囲であり、この所定の間隔 X の範囲内に後方部 13 が配置されている（図 3 において、後方鉛直仮想線 100 よりも左側）。また、図 4 に示されているとおり、操作部 12 は、側方部 14 が、椅子本体部 2 の肘置き部 6 よりも内側に配置され、ハウジング 9 の側面と同一面上に揃えられている。詳説すれば、肘置き部 6 において、最も側方に張り出した箇所を基準とする側方鉛直仮想線 101 よりも、内側に配置されている（図 4 において、側方鉛直仮想線 101 よりも左側）。

【0026】

操作前の状態で、操作部 12 は接地面とほぼ平行である。この状態で、後方部 13 における接地面からの所定の高さ Y は、施術者の足の厚みと同じか、足の厚みよりも高い。また、操作部 12 は、軸部 15 を軸に回転する可動範囲のうち、上限位置が、施術者の足の長さ（踵からつま先までの長さ）の範囲内である。すなわち、後方部 13 と接地面との間は、施術者のつま先が入る程度の間隔であり、また、操作部 12 の可動範囲の上限の高さは、施術者の踵を接地面につけたまま、浮かせたつま先が届く高さである。操作する際、施術者は、踵を接地面に付けたまま、つま先を上げて後方部 13 または側方部 14 に足を乗せて下方に踏み込み、または、つま先を後方部 13 または側方部 14 の下に入れて上方に引き上げる。

【0027】

以上により本実施形態に係る理美容用椅子 1 が構成されている。

【0028】

次に、本実施形態の効果を説明する。

【0029】

上記したとおり、本実施形態によれば、椅子本体部 2 を昇降させる昇降部 10 を操作するために、操作部 12 が昇降部 10 の可動フレーム 8 に備えられ、椅子本体部 2 と共に昇降部 10 を回転させる回転機構 11 が備えられている。操作部 12 は、棒状の部材がほぼ“コ”字形に形成されて昇降部 10 の後方および側方の周囲を囲い、昇降部 10 の後方に配置された後方部 13 と、この後方部 13 に接続されると共に昇降部 10 の側方に配置された側方部 14 と、この側方部 14 が接続された可動フレーム 8 に接続されると共に昇降

10

20

30

40

50

部 1 0 に支持された軸部 1 5 とから構成されている。すなわち、昇降部 1 0 が回転して椅子本体部 2 の向きが変わると、昇降部 1 0 に備えられた操作部 1 2 も同じ向きに回転するため、椅子本体部 2 に対する操作部 1 2 の相対的な位置が変化しない。したがって、背もたれ部 4 を起立させた状態、またはリクライニングさせた状態の何れであっても、椅子本体部 2 の向きにかかわらず、また、シャンプーボウルなどの設備の配置にかかわらず、後方や左右側方の任意の位置で昇降部 1 0 を操作することができる。

【 0 0 3 0 】

本実施形態によれば、操作部 1 2 は、後方部 1 3 が、起立した背もたれ部 4 において、最も後方に張り出した箇所を基準とする後方鉛直仮想線 1 0 0 よりも内側である所定の間隔 X の範囲内に配置されている。また、操作部 1 2 は、側方部 1 4 が、肘置き部 6 において、側方鉛直仮想線 1 0 1 よりも内側に配置され、ハウジング 9 の側面と同一面上に揃えられている。この構成により、施術者が椅子本体部 2 の周囲を動き回る際、障害とならず、効率的に施術することができる。

10

【 0 0 3 1 】

本実施形態によれば、操作部 1 2 は、軸部 1 5 を軸に回転することで上下に動く。したがって、椅子本体部 2 の向きにかかわらず任意の位置において、足を上げ下げすることで昇降部 1 0 を操作することができる。

【 0 0 3 2 】

本実施形態によれば、操作前の状態で、後方部 1 3 における接地面からの所定の高さ Y は、施術者の足の厚みと同じか、足の厚みよりも高い。また、操作部 1 2 は、軸部 1 5 を軸に回転する可動範囲のうち、上限位置が、施術者の足の長さ（踵からつま先までの長さ）の範囲内である。すなわち、後方部 1 3 と接地面との間は、施術者のつま先が入る程度の間隔であり、また、操作部 1 2 の可動範囲の上限の高さは、施術者の足のつま先が届く高さである。この構成により、操作する際、施術者は、踵を接地面に付けたまま、つま先を上げて後方部 1 3 または側方部 1 4 に足を乗せて下方に踏み込み、または、つま先を後方部 1 3 または側方部 1 4 の下に入れて上方に引き上げることで操作することができ、足に負担をかけずに昇降操作をすることができる。

20

【 0 0 3 3 】

以上、本発明の実施形態を詳述したが、本発明は上記実施形態に限定されるものではない。そして本発明は、特許請求の範囲に記載された事項を逸脱することがなければ、種々の設計変更を行うことが可能である。

30

【 符号の説明 】

【 0 0 3 4 】

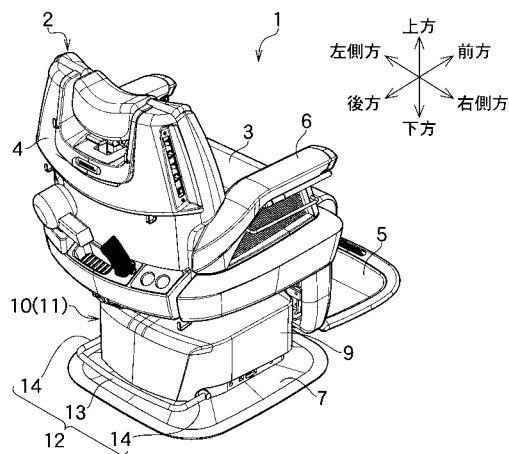
1	理美容用椅子
2	椅子本体部
3	座部
4	背もたれ部
5	足置き部
6	肘置き部
7	基台
8	可動フレーム
9	ハウジング
1 0	昇降部
1 1	回転機構
1 2	操作部
1 3	後方部
1 4	側方部
1 5	軸部
1 0 0	後方鉛直仮想線
1 0 1	側方鉛直仮想線

40

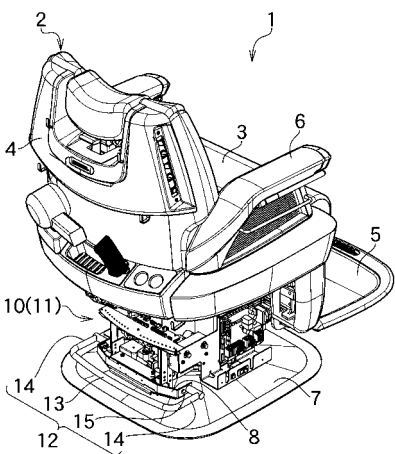
50

Y 所定の高さ
X 所定の間隔

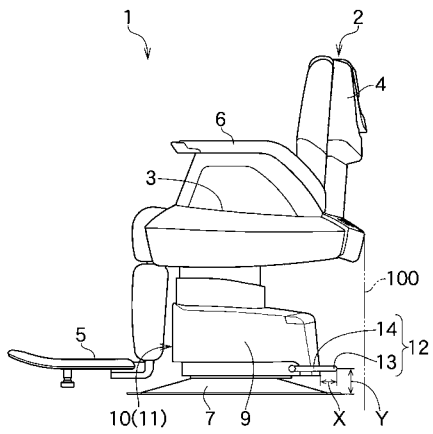
【 図 1 】



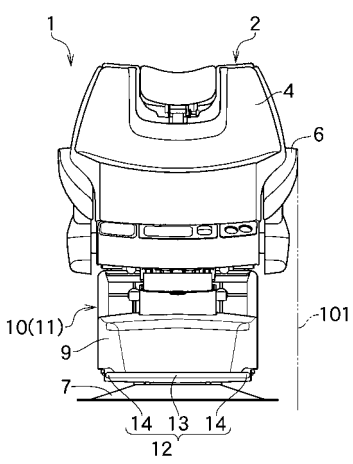
【 図 2 】



【 図 3 】



【 図 4 】



フロントページの続き

(72)発明者 中川 隼一

大阪府大阪市中央区東心斎橋 2 丁目 1 番 1 号 タカラベルモント株式会社内

F ターム(参考) 3B099 EA05 EA08 EA09